

【様式】 令和 7年度 学校マネジメントシート

1 目指す姿

学校名 ( 桑名工業高等学校 )

(1) 目指す学校の姿	○ 「地域と歩むものづくり」のキャッチフレーズのもとに、地域と連携したものづくりに取り組み、人間性豊かで、積極的に行動できる専門的職業人を育成する学校
育みたい資質・能力 (育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○ 「あいさつ・身だしなみ・きれいな学校」(桑名工業三原則)に加え、時間を守ることが徹底され、真摯に授業に組み込み、部活動、生徒会活動、資格検定試験などに生き活きと取り組む生徒 ○ 「地域と歩むものづくり」を目標に、本校独自のキャリア教育を通じ、自ら考え積極的に行動できる生徒 ○ 人間性豊かな専門的職業人を目指す生徒
(2) ありたい 教職員の姿	○ 生徒の成長する姿を思い描き、その姿を実現するべく全力で生徒に指導する教職員 ・デュアルシステム等を通じ、教科指導とキャリア教育の充実に向けて、意欲的に取り組む ・失敗を恐れず常に前向きにチャレンジする姿勢を保ち続ける ・生徒が興味・関心を持てる授業を展開するよう、常に研究を怠らない ・資格取得指導・部活動の指導や教育相談にも積極的に取り組む ○ 情報共有を行ない、学校の目指す方向を職員全体が知り、同じベクトルで向かう

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> 進路実現、充実した学校生活、資格取得 <保護者> 生徒の進路実現、基本的な生活習慣の確立、資格取得、人間性豊かな人格の形成 <地域、地元企業等> 地域で活躍できる社会性を身につけた、人間性豊かな職業人の育成	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 <保護者、中学校関係者> 情報共有、連携、協働 <地域、地元企業等> 地域で活躍できる人材育成	連携する相手への要望・期待 <保護者、中学校関係者> 本校教育活動への理解、協力、情報共有 <地域、地元企業等> 本校教育活動への理解、協力、情報共有、指導
(3) 前年度の学校関係者評価等	○身だしなみを整える、学校をきれいにすることは社会人としてのマナーであり、指導を徹底してもらいたい。 ○第1希望の企業に就職できるように、授業や補習を充実させ、基礎学力の定着、資格取得に力を入れてもらいたい。 ○生徒募集に関して、しっかり取り組んでもらって成果が出ている。 ○保護者の学校教育への興味関心を引き、協力を得ることがより良い学校教育につながるので、HPの更新の際に質を向上させてもらいたい。 ○工業教育・安全教育を基本から徹底することが、社会へ出てから役に立つので、しっかり指導してもらいたい。 ○「地域と歩むものづくり」に基づき、積極的に企業や地域と連携した取り組みをして、生徒の成長につなげていただきたい。 ○生徒の自立を促すためには、何の目的を持ってこの教育活動を行うのかを示し、理解させた上で取り組むことが必要である。	
(4) 現状と課題	教育活動	○着こなし講座によって身だしなみが改善されているが、整理整頓されていない教室が一部あるので改善したい。 ○遅刻・途中退室が減少したが、時間を守ることが徹底していききたい。 ○本来は授業で基礎学力を定着・向上させるべきであり、授業をもっと実りあるものにしていききたい。 ○資格取得者数が少なく、資格合格率が低いので、資格指導を充実させたい。
	学校運営等	○「地域と歩むものづくり」に基づいた企業や地域と連携した取り組みが少ないので、改善したい。 ○1次就職試験の不合格者を出さないように取り組む。また工業系大学への進学者が少ないので、増やしたい。 ○学校HPやすぐーるを利用して保護者への情報発信や連絡を密にすることで、保護者との連携協力体制を強固にしていききたい。 ○工業高校の魅力、桑名工業高校の魅力の発信が少しずつできているので、継続していききたい。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	1. 桑名工業三原則の堅持に加え、時間を守ることの徹底に努める。 2. 規律ある授業を行いつつ、基礎・基本を大切に魅力ある授業づくりに努める。 3. インターンシップ・デュアルシステムなどキャリア教育を推進し、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現し、工業への見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う。 4. 地域と連携したものづくりを行うことで、豊かな人間性を育み、生涯の見通しをもって創造的に探究できるよう学習活動の充実を図る。 5. 資格取得指導を充実させるとともに、基礎学力の定着と向上に努め、工業高校指導者の育成に努める。
学校運営等	1. 「情報共有と連携」をキーワードに意識統一を行い、チーム桑名工業で取り組む組織づくりを進める。 2. コンプライアンス研修を定期的実施し、コンプライアンスを徹底する。 3. 部活動指導を複数顧問が交代で行うなど、総勤務時間の縮減に取り組む。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・高等学校における学修に必要な基礎学力を有していること。(知識・技能) ・基礎的な思考力・判断力・表現力を有していること。あるいは、それらを身につける意欲を有していること。(思考力・判断力・表現力) ・活気あふれる学校生活をめざし、部活動や生徒会活動、ボランティア活動または資格検定試験などに積極的に取り組む意欲を有していること。(主体性)
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価指標

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
魅力ある授業作り・基礎学力定着・三原則の堅持	<p>&lt;1学年&gt; 基礎学力の定着を一番の目標として朝のSHRで学習を行う。また、教材研究や指導方法を工夫し、教員間で情報交換を行い授業力の向上を図ります。資格取得に関しても各系と連携を取り、チャレンジを促す。 【活動指標】 授業満足度調査のアンケート 【成果指標】 満足度80%以上 【活動指標】 基礎力診断テスト 【成果指標】 D2ランク以上の生徒が90%</p>	<p>朝学を週に3回実施し、担任だけでなく副担任、人権担当にも協力してもらい実施できた。授業満足度は90%、基礎力診断テストD2ランク以上の生徒割合は73%であった。 各系でも資格試験の補習を積極的に実施してくれた。2年生に向けて学力向上していく土台作りができた。</p>	◎
	<p>&lt;2学年&gt; 教員間のコミュニケーションの充実を図り、スムーズな組織運営ができるように努める。各学期終わりに授業アンケートを実施し、満足度が目標を超えられるように教科担当者に結果をフィードバックする。基礎学力定着と資格取得に向けて、朝のSHRの時間に小テスト等を行う。 【活動指標】 授業満足度調査のアンケート 【成果指標】 満足度80%以上 【活動指標】 基礎力診断テスト 【成果指標】 D2ランク以上の生徒が90%</p>	<p>教員間のコミュニケーションを大切に、情報共有し学年としての運営を行うことができた。朝学については2年から各コース毎で資格取得等で実施し、学習習慣の定着に一定の成果が見られた。授業アンケートは3学期に実施予定。該当学年で1つ以上の資格取得を目指す。年度末に取得状況を確認し、次年度への指標とする。 基礎学力テスト(4月)において、D2ランク以上の生徒は66%、高校2年9月のテストではD2ランク以上の生徒は64%と伸び悩んでいる。3学期の朝学で就職試験の一般教養の学習に取り組ませていく。</p>	◎
	<p>&lt;3学年&gt; 生徒の希望する進路実現に向け、基礎学力定着のために朝のSHRで学習に取り組む。また、資格取得を奨励する。 【活動指標】 基礎力診断テスト 【成果指標】 D2ランク以上の生徒が90% 【活動指標】 有用な資格取得を奨励する。 【成果指標】 履歴書の資格欄に資格を記入できる生徒の割合が100%</p>	<p>・朝の学習時間を充実させるため、人権のクラス担当の先生方にもご協力いただき、役割分担をして取り組むことができた。また、週に1回の小テストを行うことで、達成感を持たせた。 ・基礎力診断テストの英数国の成績がD2以上の達成率は82%であった。 ・資格試験に関しては放課後に学習することを推奨し、声かけをしてきた。何らかの資格を取得した生徒の達成率は99%であった。</p>	◎
	<p>&lt;教務部&gt; 公開授業、研究授業を年1回以上実施するとともに、授業振り返りシートを活用し、教員の授業スキルアップに努めます。また、規律ある授業展開を促進し、どの生徒も学びやすい雰囲気をつくり、基礎学力の向上につなげます。 &lt;人権&gt; 差別をなくし多様性を尊重できる社会を築く人材を育てるために、私たち教職員自身が差別について深く学び、自身の価値観をアップデートしていくことが不可欠です。そのため人権担当として学んだことを積極的に学校全体に共有し、発信していくことで、学校全体の人権意識の向上に努めます。 &lt;図書&gt; 利用者への資料提供(書籍購入、相互貸借)、「調べもの、探しもの」などの情報提供の補助といった基本的な図書館のレファレンス業務の推進、基礎分野や専門分野の書籍の充実、そして調べ学習に対応可能な図書館として配架、蔵書冊数の充実を図り利用者支援について一層励みます。 生徒や教職員に向けた情報資源の収集・活用方法の指導及び提案を行っていきます。 生徒が司書室へ入室する際に桑名工業三原則を徹底させ、基本的生活習慣の確立を目指します。</p>	<p>&lt;教務部&gt; 公開授業、研究授業を実施し、授業参観アンケートを行い、ICTの活用を含めた授業力向上のために意見交換をした。規律ある授業展開を意識し、学校全体で取り組んだ。新学習指導要領の実施にあたり、新しい評価基準の実施と見直しに努めた。 &lt;人権&gt; ブラッシュアップ研修では職員同士が自分の周りにおける人権課題を出し合い話し合うことでさらなる人権意識の向上が見られた。また、人権LHRの指導案の作成も多くの先生方からの助言をいただくことができ、生徒の深い学びにつながるLHRができた。 &lt;図書&gt; 昨年度に引き続き図書館利用促進のための計画を実践し、授業利用が大幅に増加した。今年度のデータは次のとおりでした。 受入蔵書 243冊(購入 235冊、寄贈 8冊) 貸出統計1369冊(生徒1010冊、教員359冊) 相互貸借 7件(貸出 23冊 借受 42冊) リクエストによる書籍購入 38件 レファレンス相談件数 13件 授業による図書館利用件数 9件(145時間) 部活による図書館利用件数 2件 (2025/12/23現在)</p>	◎

<p>&lt;進路指導&gt;  <b>【活動指標】</b> 生徒が希望する進路実現のため、基礎学力の定着を図り、教員間で情報交換する中で社会人としての資質向上を図ります。  <b>【成果指標】</b> 桑名工業三原則のあいさつ、身だしなみ、きれいな学校を堅持し、社会において大切であることを理解させます。</p>	<p>生徒情報の共有、社会人としてのマナーや基本的な生活習慣を身につけるよう教員間での情報共有等できている。また基礎学力定着に向け業者テストや教材提供など予定通り実施できている。その結果や日程、成果等を今後検証をしていく必要がある。</p>	○
<p>&lt;生徒指導&gt;  朝の登校指導において挨拶や服装指導を行い、遅刻者には理由の確認と根本的な原因の改善を促す。保護者への連絡と協力をお願いする。服装については全職員で指導する。日頃の学級活動や清掃指導を通じて学習するための環境づくりを徹底・推進する指導体制をつくる。  <b>【活動指標】</b> 遅刻統計を毎月公表する。月2回の遅刻であいさつ運動をする。  <b>【成果指標】</b> 体調不良以外の遅刻者数を30%減少させる。</p>	<p>遅刻者数は前年度と同数であった。遅刻者については、毎回話をしながら生活習慣を身につけるようにしていく。</p>	◎
<p>&lt;保健安全部&gt;  ・保健室利用の際に挨拶や身だしなみの指導を行い、生徒一人ひとりの個性を尊重し、親切でこまやかな対応を心がけます。  ・清潔な保健室の維持に努め、生徒にも職員にも快適な室内環境を整備し、過ごしやすく働きやすい環境づくりを目指します。  <b>【活動指標】</b>  ・生徒をていねいに観察し、心身の早期回復を目指して適切な処置・対応を行います。  ・本校職員の健康維持のため必要な情報を提供し適切な支援を行います。</p>	<p>・身だしなみや、言葉遣いの指導において、徹底して取り組むことができた。また、来室理由を事細かく確認し、それぞれの事象に対し適切に対処することができた。  ・清掃時間を含め、生徒や教員が安全に清潔に利用できるよう務めることができた。  ・活動目標について  生徒の状況や心境を確認・把握に努め、個々に対応することができた。また、来年度に向け、IT機器を用いたデータ管理を目指し準備している。</p>	
<p>&lt;電気系&gt;  ・小さな「わかる」の積み重ねで人生が「かわる」を生徒に還元するために、  ①授業の教材や指導法において教員間で情報交換および相互のスキルアップをはかり職員の授業力向上を目指します。  ②電気系の資格取得を勧め、資格取得指導において情報共有をはかり職員の指導力向上を目指します。  ③生徒に対し基礎基本を中心とした学習指導に力を入れるとともに、課題解決能力の育成を目指します。  ・自立する18歳を目標に、将来困ったときに主体的に解決できるような考え方ができるように取り組みます。  ・生徒、職員が一丸となって「きれいな学校づくり」をさらに推し進め、電気実習棟の整理整頓をすすめます。準備、あと片付け等の基本姿勢とともに、「あいさつや身だしなみ」など基本行動の習慣化に取り組みます。  <b>【活動指標】</b>  ・学習内容が「わかる・できる」ことにより、生徒全員が授業に対する達成感（満足度）を得られるように努めます。  ・電気系実習棟の実習室および廊下における美化を徹底します。  <b>【成果指標】</b>  ・年度末における生徒の授業に対する満足度が80%以上になることを目指します。  ・電気系実習棟の実習室および廊下において「ちり・ごみ」がなくきれいな状況となるよう取り組みます。</p>	<p>高校生活3年間で「自立する18歳」をゴールに定め、授業・実習を通して基本的な手法を身に付け、「探究」ができるようになること。仮説を立ててダメだったら修正をする取り組みを実施している。特に「失敗することを嫌う・ミスすることを嫌がり指示を待ち、言われたことしかやらない」傾向が強いので、社会に出て「花咲く人」となるように多くのことを考え・行動することを取り入れている。  授業形態ではインプット型の学習展開ではなくアウトプット型の学習にシフトし、理解できたことを理解できていない人に伝えることで、理解を深めるとともに、チームで取り組むことで個々の能力向上を図り、授業・実習において達成感を得られるようにしている。教育活動を通じて短期・中期・長期の目標を定め、それぞれの目標をクリアすることで自己肯定感を得られるように学習環境を整備し取り組んでいる。この世代は、新型コロナの影響で大切な時期に学習が停滞している。また計算問題等の演習ができていないので、読み・書き・計算等のアナログな学習スタイルを基本としつつ、チャットGPTを教育ツールに使い、工夫したノートを作成できるように取り組んでいる。  実習においては危険予知・危険防止の安全教育の観点からも整理・整頓の清掃活動、工具の正しい使い方など基礎基本はできている。授業満足度・理解度に関しては①よく理解できたが40%、②理解できたが50%とあり、目標の満足度80%を上回っている。</p>	

魅力ある授業作り・基礎学力定着・三原則の堅持	<p>&lt;機械系&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深い学びを体感できるように基礎基本を大切にし、分かりやすい授業を実践するとともに手法や技法について教員間で情報を共有することで、機械系教員全体の知識や技術の向上に努めます。</li> <li>・桑名工業三原則および安全作業を徹底することで、工業そのものの見方・考え方や製造現場での活動を涵養し、より実践的な学習活動を行います。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識の定着を図り、そのうえに専門的な知識を積み上げるよう系統的な授業展開をする。</li> <li>・ICT等を有効に活用して視覚的な教材を提示し、より具体的に学習内容が理解できるように授業を展開します。</li> <li>・実習前点呼や作業前の安全指導を徹底するとともに実習室の環境整備・整理・整頓に努めます。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や実習でのICT活用率と生徒の授業満足度が高水準（80%以上）を保つことを目指します。</li> <li>・作業中の重大事故・災害ゼロを目指し、「安全で学びやすい」教育環境の実現を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒間の学力差が大きい実情を踏まえ、基礎・基本を基盤に難易度を段階的に上げ、発展的な授業展開に心がけることができた。また生徒個人の能力と応用力を進展させるため理解度に沿った課題や応用問題の設定などの教員間の情報共有を行うなどして、効果的な学習活動を実践することができた。</li> <li>・ICTの活用については、Google ClassroomやSlid、Microsoft Powerpointなどにより、従来説明が難しかった機構や加工法の仕組みや特徴を視覚的に提示することができ、生徒が興味をもって教材に取り組むことにより、その理解度を向上させることができた。</li> <li>・実習前の安全指導や、各工程ごとの安全作業の徹底、実習環境の点検と危険因子の未然排除に心がけ、「安全で学びやすい教育環境」を実現することができた。今後も継続して続けていく。</li> </ul>	
	<p>&lt;1学年&gt;</p> <p>ICTを活用したクラス運営と授業の展開、学年校務の効率化を実施します。生徒が進路実現に合致したコース選択ができるように支援します。</p> <p>【活動指標】 G-suite for Educationを利用</p> <p>【成果指標】 クラスルーム参加率100%</p> <p>【活動指標】 コースガイダンス（2回）、系ガイダンス、実習見学会（2回）、コース選択面談（3回）を実施します。</p> <p>【成果指標】 生徒のコース選択満足度100%。</p>	<p>クラスルームへの加入率は100%で、ICTを活用した学年運営をできた。コース選択満足度は90%であった。迷っている生徒に対して各系から説明をしていただいたことで、納得のいく選択ができた。生徒自身も積極的に考えてくれた成果が出た。</p>	
キャリア教育・資格・課題研究を含めた地域と連携したものづくり	<p>&lt;2学年&gt;</p> <p>主体的・対話的で深い学びの中で、生徒が満足できる進路実現へ向けて情報発信等で支援します。</p> <p>【活動指標】 進路シミュレーション活動、インターンシップ実習体験、進路ガイダンス、3年生進路体験報告会</p> <p>【成果指標】 満足度100%</p>	<p>1学期末に行われたインターンシップ、2学期末の進路ガイダンス、3年生進路成果発表会を通して、進路意識を高めることができた。進路決定に向け3学期の進路シミュレーションを充実させていく。</p>	
	<p>&lt;3学年&gt;</p> <p>進路選択に必要な知識を身につけるため、企業や学校研究に努め、職業理解を深める。</p> <p>【活動指標】 進路シミュレーションを通じて生徒・保護者の希望に沿った進路決定を実現する。</p> <p>【成果指標】 生徒・保護者との面談を経て希望の進路先への決定率100%</p>	<p>進路シミュレーションや進路講話、個別面談を通じて職業理解や企業、学校研究を行った結果、94%の生徒が希望通りの進路実現をした。</p>	○
	<p>&lt;教務部&gt;</p> <p>授業時間の確保や、キャリア教育に関するより深い探究ができるカリキュラムを編成します。</p> <p>&lt;教務部：図書&gt;</p> <p>生徒の進路選択の判断材料となる幅広い分野の資料収集、及び職業選択やインターンシップの参考となる資料の購入、地元企業を持つ技術力に関連する専門資料、資格試験に役立つ資料の充実を進めます。</p>	<p>&lt;教務部&gt;</p> <p>授業時間の確保に努め、各教科と連携してカリキュラム編成の見直しに努めました。</p> <p>&lt;教務部：図書&gt;</p> <p>特に電気科の先生方と連携し、課題研究の時間に図書館を利用して図書館の課題解決に向けたものづくりをしました。図書館のPR動画や館内の分類サインの製作、NFCタグを利用した館内掲示が成果物となり、資格取得の促進にもつながりました。</p>	
	<p>&lt;情報&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担当教員の授業におけるICT機器の活用率の向上、及び生徒購入iPadの使用率向上を図る。その為に、情報研修の充実と周知に努め、参加率100%を目指す。また、さらなるICT教育の充実を図るために環境整備・改善に努める。</li> <li>・近未来に向けた生徒の情報活用能力や主体性を持った考え方を育て、society5.0で実現する社会に対応出来る人材を育成できるよう最新情報を学校全体で共有する。</li> <li>・学校HPを月5回更新など広報活動に努め、本校受験者数確保に向け地域や中学生への情報発信を行う。</li> </ul>	<p>2025年度中に、全教科でICT機器を活用した授業を実施するという目標を掲げ、教材開発の支援を実施した。更に各学期に最低1回の教員向けICT研修を行った。その結果、専門教科では週1回以上の授業でICTを活用するようになり、生徒の能力向上に寄与した。生徒アンケートからも「学習意欲が高まった」などの声が開かれた。今後は、さらに高度なICT活用を推進するため、教員のスキルアップを図るとともに、生徒の主体的な学習を促すような教材開発を支援していきたい。更に、学校ホームページでは月5回以上の更新を行い、幅広い広報活動に努めた。</p>	

**<進路指導>**

**【活動指標】**

キャリア教育を推進し正しい勤労観・職業観の育成を目指し、豊かな人間性を育み生涯の見通しを持たせる教育を実践します。また一人ひとりの社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる態度を育成します。

**【成果指標】**

- ・3年生には就職試験および進学対策としての面接指導を複数回実施します。6月に業者に委託した模擬面接指導、9月に全職員対応の模擬面接指導を実施します。
- ・2年生には12月以降に「進路決定シミュレーション」など進路決定に向けた対策を早期から実施し、生徒が自主的に進路を決定する機会を与えます。
- ・1年生には入学後からコース選択の取組みにより、将来の進路実現を考えさせる機会を作ります。また、12月には職業適性検査を実施し個々の適性について学ぶ機会を設定します。
- ・特別な支援が必要な生徒を早期に把握し、該当生徒に関係するすべての職員との協力と理解を得ながら、生徒自身が進路実現に必要なスキルや方策を身につけられるよう、個別の支援策を教育相談係と連携して行います。
- ・各学年で複数回の進路講話や職業理解ガイダンス等を実施します。

キャリア探究部とも連携し、活動指標通り、概ね計画通り実施できた。

- ・3学年は、計画通り、面接指導を2回実施、進路講話を3回実施できた。
- 就職・進学とも生徒の希望する進路へ進むことができています。
- ・2学年は、12月の「進路成果発表会」で3年生からの進路実現に向けた体験談を聞き、「進路決定シミュレーション」に向けた「Handy」の登録を行うなど計画通り進められている。また、3月の「進路ガイダンス」では分野別の講座を設定し進路決定に向けた取り組みができています。
- ・1学年は、朝学テキストの提供や企業情報の冊子等の配布などを通して、自分の進路について考えさせる機会を作るようにした。3月の「進路ガイダンス」では分野別の講座を設定し進路決定に向けた取り組みを通して、進路実現に必要なスキルを身につけられるようにした。

**<キャリア探究部>**

- ・1年次は、桑名工業高校成果発表会やポスターセッションを通して地元や周辺企業の特徴等を知ること、勤労感や職業意識の育成を行い、将来の進路選択についてのビジョンを考えさせます。
- ・2年次は、インターンシップ等を通して、生徒自らが適正な職業感や、必要な資格や技術について考え、セルフマネジメントを行なうための大きな機会とします。また、デュアルシステム専攻生徒に関しては上記に加え、対人関係スキルなどの人間力の向上にも努めさせます。
- ・3年次は、企業と連携した授業等を通して創造性や探究心を向上させるとともに、これまで実施してきたインターンシップや企業での実習等を通して身に付けた力を、進路実現に向けて大いに発揮させ、社会人になるにあたっての心構えを定着させます。

**【活動指標】**

インターンシップや企業での実習を充実させるため、事前指導を徹底し、実施する意義や身に付けてほしい力について生徒たちに十分に理解させ、その意欲を喚起させます。体験する希望職種に対応できる企業の開拓ならびに受け入れ態勢の調査のために、企業訪問や担当者との面談を複数回実施します。また、キャリア教育の充実に向けて、企業や大学そして地域と連携した授業等を実施していきます。

**【成果指標】**

インターンシップは地域産業やその特徴を知り、働くことについて考える最初の一步となることから、指導の充実とアンケートによる理解度・満足度の高い数値を維持し、その結果を後の進路指導に活かします。成果発表会やポスターセッション、企業等と連携した授業等を通じて、思考力や表現力に加えて自己理解や他者理解などを向上させ、個々に応じた人格を形成できるようにします。また、企業アンケートについても、満足度を高い水準で維持するために、その結果を生徒にフィードバックし、自身に必要な知識等に気づき、それが定着できるようにします。

**<キャリア探究部>**

- ・今年度は、桑名商工会議所主催によるインターンシップや合同進路説明会、そして合同進路セミナーなどの進路実現に向けた行事を段階的に開催したことで、進路実現に向けての意識付けを早くからでき、就職先や取得すべき資格・技術などをより明確に示す生徒が多くみられた。
- ・デュアルシステム専攻生徒については、非認知能力を測定し数値化できるシステムを昨年度に引き続き導入した。そのことで、生徒たちは自分の強みを知るだけでなく、企業実習や授業の中で伸ばしたい能力に対してアプローチする動きが見えた。また、企業側やご家庭にも共有することで、企業と学校、家庭が三者一体となって生徒の効果的支援を構築し実施することで、更なる能力の向上が見えた。
- ・インターンシップや合同進路説明会の事前指導において、担任団とのwebを用いての情報共有や業務内容の説明会を密にしたことにより、指導の内容や意義を生徒たちにより深く落とし込むことができ、インターンシップでの取組みや合同進路説明会の内容が充実したものとなった。
- ・パートナーズ登録の新規企業開拓において、今年度は企業実習参加以外にも、技術提携や授業参加にも積極的な企業もみられたことで、教員の指導内容と企業の持つ知識や技術を結び付け、授業内容の充実のきっかけに繋げることができた。
- ・成果発表会におけるインターンシップや課題研究等の発表において、担当教員の創意工夫のおかげもあり、生徒たちの表現力が年々向上している。また、デュアルシステム専攻生徒においては、成果発表会でのスライドやポスターセッションで作成するポスターを見える化したことにより、早い段階から構想できたことで、内容の充実や表現力の向上に繋げることができた。

**<保健安全>**  
 ・保健室への入退室の際、社会人として望ましいマナーが身につくように指導します。  
 ・生徒との対話を積極的におこない、社会人としての資質が向上するように指導します。  
 ・感染症について正確な情報を発信し、社会人として必要な感染予防の意識を高めるように指導します。  
 ・健康チェックを毎日確実にを行い、自他の健康の維持について高い意識を持たせ、集団の安全・安心を守る意識を育みます。

**【活動指標】**  
 服装や言葉遣い、マナーや行動について正しくできるまで根気強く指導します。定着率100%を目指します。

・身だしなみや敬語など、社会人になるに必要と思われる能力や資質を身につけてもらうことを狙いに、熱心に取り組むことができた。  
 ・一方的な指示や感想ではなく、生徒との対話を中心に接することに心がけて取り組むことができた。  
 ・保健だよりやSHR、集会などで感染症や欠席の傾向、週末・休日の過ごし方について発信することができた。

**活動指標について**  
 生徒の保健室利用にあたり、入退室の際に身だしなみや挨拶を徹底させた。また、コミュニケーションをとる際に、他者への伝え方や振る舞い、礼儀や思いやりを念頭に指導することができた。

**<電気系>**  
 ・主体的・対話的で深い学びが実現できる授業を目指して授業内容を工夫します。学年に応じた生徒の生きる力を育て、地域で活躍し地域に貢献できる人材の育成を目指します。  
 ・生徒一人ひとりが思考力・判断力・表現力を養い、課題を解決する力を身につけさせるとともに、自らの個性を伸ばし多様な生徒同士が協働して課題の解決に向かう授業を目指します。  
 ・資格は将来の仕事を考えるアイテムであることを認識させ、資格試験・検定試験の指導を充実させて合格率の向上を目指し、生徒に自信をつける取り組みをします。

**【活動指標】**  
 クラス全員で受検する検定試験や国家資格試験において、合格率を高めるよう努めます。

**【成果指標】**  
 1年生のクラス全員で受検するものにおいて、  
 計算技術検定3級 90%以上  
 危険物取扱者試験乙種第4類 60%以上  
 第2種電気工事士 60%以上  
 の合格を目指します。上位学年は、それぞれのコースにおいての上位資格取得に挑戦する。  
 上位資格のゴールとして、電気技術者コースは第3種電気主任技術者、情報技術者コースにおいては情報セキュリティマネジメントの合格を目指す。

地域と連携する事業においては「いなべ市観光協会」と連携し、観光アプリ（高校生目線）を開発することにより地域で活躍・貢献できる人材育成に努めるとともに、生徒の学びを得ることに寄与していく。

学習活動で多くの失敗をし、その原因を追究し次につなげて成功とすべくチャレンジできる環境を整えている。

目標に向けての教育活動として①前に踏み出す力、②考え抜く力、③チームで取り組む、という力を育成するために取り組んでいる。具体的に①生徒が自らやるべきことを見つけ行動する、②できないことがあれば周囲を巻き込む、③状況を分析し、目的・目標を明らかにする、④目標達成に向けて協力する、ということができるように取り組んでいる。地域と連携した「ものづくり」においてはいなべ市と連携をしてアプリケーション開発することにおいて生徒を成長させることができた。

**成果**  
 ①第2種 電気工事士  
     2・3年生 17/21 81%  
     1年生 19/79 24%  
 ②第1種電気工事士 10/19 53%  
 ③第3種電気主任技術者 1/2 50%  
 ④危険物取扱者乙種四類 1年生2月受検  
 ⑤機械保全技能検定（電気保全）3級・2級  
     2月受検  
 ⑥計算技術検定3級（1年生） 40/80 50%  
 ⑦計算技術検定2級（2-4） 3/31 10%  
 ⑧パソコン利用技術検定2級（2-4）  
     29/31 94%

⑨情報技術検定試験2級（2-4） 16/31 52%  
 ⑩リスニング英検（2-4） 5/29 17%  
 ⑪ITパスポート 1/1 100%  
 ⑫2級電気工事施工管理技術検定 3/4 75%  
 ⑬2級陸上特無線技士 2年生電気系3月受検

学年単位で設定した資格等取得目標を満たすことができなかった。原因として①その気にさせることにできなかった。②そのため演習量が足りなかった。③取得できた上位層が理解できなかった生徒に指導する時間が不足していた。ことがあげられる。入学生全体として、教育が停滞した代償として、読む・考える・興味を持つ・計算能力等、基礎的な力が不足していることも一因にある。このことを踏まえて次年度につなげていく。

キャリア教育・資格・課題研究を含めた地域と連携したもののづくり	<p>&lt;機械系&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や社会に貢献できる人材を育成するため、生徒一人ひとりが共同・協同・協働するために必要なさまざまな力を身につける授業や機会を提供することを目指します。</li> <li>・資格や検定試験に向けて補習を工夫し充実させることにより、合格率が伸び悩む試験の合格率向上を目指します。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工場見学や校外活動、機械系独自の取り組みにおいて、生徒が達成感を得られるように努めます。</li> <li>・各種資格取得や課題解決に向けて、教員間での情報共有や指導方法の改善を行うように努めます。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <table border="0"> <tr><td>危険物丙種</td><td>80%合格</td></tr> <tr><td>危険物乙種四類</td><td>50%合格</td></tr> <tr><td>情報技術検定3級</td><td>60%合格</td></tr> <tr><td>計算技術検定3級</td><td>80%合格</td></tr> <tr><td>各種3級技能士</td><td>100%合格</td></tr> <tr><td>機械製図検定</td><td>50%合格</td></tr> <tr><td>パソコン利用検定</td><td>70%合格</td></tr> </table>	危険物丙種	80%合格	危険物乙種四類	50%合格	情報技術検定3級	60%合格	計算技術検定3級	80%合格	各種3級技能士	100%合格	機械製図検定	50%合格	パソコン利用検定	70%合格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生のインターンシップや1年生の短期インターンシップ、専門学校などの外部講師からキャリア教育講義を受講し、働く意義や将来の進路実現に向け考える機会を得ることができた。また、合同進路説明会など特に地元企業に関する情報を提供することで、地域企業の業種やその特徴を理解し、進路意識の向上と進路選択の幅を拡げることができた。</li> <li>・工場見学については、企業側の受け入れ体制が整わず今年度は実施できなかった。</li> <li>・資格取得に向けて、放課後の補習を実施したが、合格実績に結びつけることができなかった。資格取得指導については生徒の能力や実情に合わせ、さらなる検討が必要である。</li> </ul> <table border="0"> <tr><td>危険物丙種</td><td>62%合格</td></tr> <tr><td>危険物乙4類</td><td>10%合格</td></tr> <tr><td>情報技術検定3級</td><td>※※%合格</td></tr> <tr><td>計算技術検定3級</td><td>82%合格</td></tr> <tr><td>各種3級技能士</td><td>91%合格</td></tr> <tr><td>機械製図検定</td><td>24%合格</td></tr> <tr><td>パソコン利用検定</td><td>83%合格</td></tr> </table>	危険物丙種	62%合格	危険物乙4類	10%合格	情報技術検定3級	※※%合格	計算技術検定3級	82%合格	各種3級技能士	91%合格	機械製図検定	24%合格	パソコン利用検定	83%合格	◎
	危険物丙種	80%合格																													
危険物乙種四類	50%合格																														
情報技術検定3級	60%合格																														
計算技術検定3級	80%合格																														
各種3級技能士	100%合格																														
機械製図検定	50%合格																														
パソコン利用検定	70%合格																														
危険物丙種	62%合格																														
危険物乙4類	10%合格																														
情報技術検定3級	※※%合格																														
計算技術検定3級	82%合格																														
各種3級技能士	91%合格																														
機械製図検定	24%合格																														
パソコン利用検定	83%合格																														
	<p>&lt;生徒指導&gt;</p> <p>挨拶・身だしなみ・きれいな学校を維持し、時間を守る事について校内全域で学年・科を超えて指導するために職員間の共通理解を図る。生徒自ら積極的にマナーや清潔な頭髪を含め身だしなみに気配りできるように声掛けをしていく。社会人として必要なマナーを身につけさせる。</p>	<p>大きな声で挨拶できる生徒が多くなっている。身だしなみについては乱れている生徒もいるが、職員全体で指導している成果はある。</p>	◎																												

**改善課題**

- ・基礎学力定着へ向けて朝学習や資格取得指導、言葉がけの工夫も含めた授業改善にさらに取り組み、基礎力診断テストや就職試験の結果において成果を出す必要がある。
- ・課題研究において、地域や企業、大学・専門学校等と約40%が連携を行った。来年度はさらに連携率を上げるとともに、生徒が探究心を持って主体的に学習に取り組める内容に工夫をしていく必要がある。
- ・生徒のコミュニケーション力が低下しており、学校教育活動全体を通じてコミュニケーション力を養成していく必要がある。

**(2) 学校運営等**

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報共有と連携・教職員による生徒への指導の徹底	<p>&lt;1学年&gt;</p> <p>学年団や関係部署との連携をはかり、日常のコミュニケーションの中で情報共有できるように心がけます。担任だけでなく全職員にかかわってもらうようにします。</p>	<p>日々、生徒情報を共有する機会が多かった。生徒1人ひとりの様子を見ることができた。各教科からも授業の様子を共有できた。</p>	
	<p>&lt;2学年&gt;</p> <p>各部署との連携をはかり、教職員間のコミュニケーションと情報共有を大切にします。指導が必要な生徒に対しては学年団を中心に、保護者の理解・協力を得ながら対応していきます。</p>	<p>普段から学年団内だけにとどまらず、各系や分掌との連携をとり、生徒対応、学校行事を遂行できた。</p>	
	<p>&lt;3学年&gt;</p> <p>進路実現に向け保護者との連携を密に行う。関係部署との連携を図り、情報共有や教職員間のコミュニケーションを大切にする。面接指導では全職員の協力を得て、様々な視点から生徒の面接力向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三者懇談会や学年便りなどを通して、保護者と連携を密にとってきた。</li> <li>・関係部署と連携を図り、生徒対応に活かすことができた。</li> <li>・面接指導においては、学校全体として先生方に関わっていただき、生徒の進路実現につなげることができた。</li> </ul>	

<p>&lt;電気系&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内グループウェア、系会議を利用して情報共有・交換をすすめる、系内における問題点を全職員で共有し、協力して課題解決にあたります。</li> <li>・教員個々の特技と知識を活かし、これを皆で共有して教員と生徒のスキルアップを目指します。個々の持つ経験や知識を共有できる職場環境をつくり業務の効率化をはかります。</li> </ul> <p>【活動指標】電気系職員の授業や資格指導に協働して取組み、教員相互間の連携に対する達成感を高めるよう努め、生徒のゴールは「自立する18歳」を最高目標となるべく職員間連携して取り組みます。</p> <p>【成果指標】日常の業務を通して「気付いたこと」を職員間で共有し改善に取り組み修正し生徒に還元評価する。</p>	<p>実習の準備・休憩時間・実習終了後や資格取得試験対策補習等を職員間で共有するとともに、データ共有することで生徒に多くのことをフィードバックできる環境やそれぞれの教員の得意分野を活かす環境を整えており、先生方の意欲向上に寄与している。</p> <p>実習や放課後に実施している資格取得補習等においては教員の協力体制が確立され、生徒のスキルアップ・教員間のスキルアップにもなっている。複数の人員で取り組むことで、生徒の能力向上にもつながっている。</p>
<p>&lt;機械系&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系会議やteamsなどを活用し、教員間の意見交換や情報共有を積極的にを行い、話しやすい環境をつくり、課題解決に向けて実践しやすいように協力・協働に努めます。</li> <li>・各実習における生徒の安全確保に努めます。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械系教員が授業も含めた新たな取組みを行い、その情報や結果そして課題についても共有します。</li> <li>・各実習で生徒情報を共有し、また工作機械の小さな不具合についても意見交換することで、事故・災害・問題行動の未然防止を図ります。ものづくりマイスターの先生方にも意見を求め、複数の目で安心安全の確保に努めます。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系会議を含め情報共有や教員間連携の場を積極的に設け、今後の指導等の充実につなげます。</li> <li>・年間を通して重大事故や災害ゼロを目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系会議を年間行事に記載することで、計画的な運営ができた。さらに必要に応じて臨時的な系会議を行い情報共有に努めた。これにより生徒情報や実習設備の状態等の共有を図り、積極的な意見交換や指導方法を、横への繋がりとして共有し実践へと繋ぐことも出来た。</li> <li>・講習会や研究会の配付資料を回覧して最新技術や各県・各校の課題や実践例を提供することで、昨今の工業教育の課題と方向性を情報共有することに務めた。</li> <li>・実習作業中の重大災害件数ゼロ。特に実習前点呼において、安全指導だけでなく社会人に必要な資質やマナー、「聞く姿勢」を身につけさせた結果として重大災害ゼロに結びついたと考えている。しかしながら、予期せぬ火傷があり、専門家を交えて再発防止策を検討しているところである。今後は重大災害だけでなく、怪我をさせない実習を目指していく。</li> </ul>
<p>&lt;保健安全&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校医と連携し生徒の健康状態や健康上の課題、学校環境について情報交換を行い生徒や保護者にフィードバックします。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期当初に学校生活への順応が心配される生徒についてはできる限り保護者を交えて情報共有をおこない、家庭との連携を密にして確かな支援が行えるよう取り組みます。</li> <li>・生徒の健康に対する意識を高め必要な情報を提供するため定期的に保健だよりを発行します。また職員や生徒を対象に緊急時の対処法等について研修会を実施します。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回保健だよりを発行します。年に1回程度、職員対象に研修会を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健安全について健康診断を基本に、学校医と連携をとり、進めることができた。</li> <li>・活動指標について養護教諭、教育相談担当教諭を中心に、保護者との連絡を密にし、安心安全に学校へ通えるよう配慮ができた。</li> </ul> <p>・成果指標について      毎月の保健だより配布を実施      4月エピペンの使用についての研修を実施      7月AED講習実施</p>
<p>&lt;生徒指導&gt;</p> <p>生徒情報を共有しやすい環境にするため、生徒指導室の雰囲気作りに努める。問題行動や事故等が発生した場合は、情報を共有して、学年・系・分掌と連携して学校全体で指導できる体制作りに努める。</p>	<p>情報を共有することができた。今後も引き続き継続し、安心安全な学校づくりに寄与していきたい。</p>
<p>&lt;教務&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務委員会等において、教科代表教員間の意見交換や情報共有を積極的にを行い、学校全体で連携して生徒を指導できる体制を作る。</li> </ul> <p>&lt;人権&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育推進委員会を通じて各分掌、学年とも連携しながら、人権学習の内容や、生徒情報の共有を進め、生徒が主体的に、安心して学ぶことのできる環境を育む。</li> </ul> <p>&lt;図書&gt;</p> <p>図書館情報を掲載した図書館だよりの定期的な発行や図書館CMなどで情報を開示し、来館促進や読書活動推進に努める。</p>	<p>&lt;教務部&gt;</p> <p>教務委員会等を通じて生徒の指導に関して意見交換や情報共有を行い、その都度修正しながら生徒の指導にあたりました。</p> <p>&lt;人権&gt;</p> <p>人権教育推進委員会を通じて生徒たちが抱える問題の共有や生徒にとって今必要な人権学習の議論を行うことができました。</p> <p>&lt;教務部：図書&gt;</p> <p>図書館だよりや生徒製作のPR動画で情報発信することができました。来館した生徒と関わる中で、読書感想文コンクールの応募者2名を選出し、他の教職員と連携し、指導をすることができました。</p>
<p>&lt;総務&gt;保護者・地域住民・報道機関への資料提供</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の提供については透明性があり迅速な対応に努める。</li> <li>・本校の活動がより多くの報道機関に取り上げられるよう、すぐーる、Google classroomなどを活用し、保護者・地域住民への情報提供に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時、資料を提供することで、透明性があり保護者から安心していただけた。</li> <li>・すぐーる、Google classroomなどを活用し、保護者・地域住民への情報提供に努めることができた。</li> </ul>

コンプライアンス・総勤務時間の縮減	<p>&lt;学校全体&gt;          設定した日の定時に退校できた教職員の割合・・・100%          予定通り休養日を実施できた部活動の割合・・・100%          放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合・100%          時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数・・・0人          時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の          延べ人数・・・0人          1人当たりの月平均時間外労働・・・・・・15時間以下          1人当たりの年間休暇取得日数・・・・・・17日以上</p>	<p>R6 95% → R7 98%          R6 99.5% → R7 100%          R6 100% → R7 100%          R6 7人 → R7 7人          R6 36人 → R7 32人            R6 15.8時間→ R7 14.3時間          R6 15.1日 → R7 16.3日          目標が達成できない取り組みもあったが、業務等の効率化により、勤務時間縮減につながったと考えられる。</p>
	<p>&lt;1学年&gt;          ・普段のコミュニケーションを活用して、担任会などの会議を最小限にします。          ・年休を取得しやすいように協力し合います。          ・コンプライアンス遵守を徹底し、信頼される教職員を目指します。          ・副担任とも連携を取りながらHR活動を行います。</p>	<p>朝の打ち合わせを活用し、週の連絡事項、今後の予定など明確にできた。          副担任にも協力してもらいながら、担任の負担を少し減らすことができた。</p>
	<p>&lt;2学年&gt;          ・普段から情報共有をしっかりと行い、学年会開催を最小限にします。          ・総勤務時間の縮減に向け、年次有給休暇等を取得しやすい環境を作ります。          ・副担任とも連携し、HR活動を分担して行います。          ・コンプライアンスについては、日頃から意識を高め声を掛け合えるような雰囲気を作ります。</p>	<p>・学年団で普段から情報共有を行うことができています。          ・資格試験の補習や部活動などのため年次有給休暇の取得に関しては個人間での差が発生している。          ・修学旅行などを通して副担任とも連携をとることができた。          ・コンプライアンスについては、情報共有をすることで日頃から高め合えた。</p>
	<p>&lt;3学年&gt;          ・進路決定の為の情報共有を密に実施します。クラスルームなどの掲示板を利用し最新の情報を提供できるように工夫する。          ・学年団内で連携を取り、学年・学級運営を円滑に実施することで、総勤務時間の縮減に取り組む。          ・コンプライアンスを遵守し、生徒との信頼関係を築く。</p>	<p>・進路指導部、学年間の連携を密にし、情報共有を丁寧に行うことができた。また、クラスルームなどのICTを有効利用し、生徒らに効率よく情報共有することができた。          ・学年団で連携を取ることで、副担任も含めた教員と協力し、学年・学級運営を円滑に行うことができた。          ・コンプライアンスを意識し、生徒に対応することができた。</p>
	<p>&lt;機械系&gt;          法令を遵守し、座学授業や実習方法・内容さらには機械系内における業務を効率化し、情報を積極的に共有することで、教員の負担を軽減し、勤務時間縮減や「休みやすい」「働きやすい」職場環境を目指します。  <b>【活動指標】</b>          機械系施設の環境整備、教材・資料の整理と共有、機械系業務を担当者だけに頼らず分散化し、協力・協働の実践に繋がります。  <b>【成果指標】</b>          機械系全教員の総勤務時間縮減</p>	<p>法令を遵守し、生徒・職員の人権を守るとともに規範意識の向上に努めることができた。          系会議を積極的に行うなどして、職員同士の業務の状況を理解することができたことで、職員間の雰囲気も良く過重な業務の負担を分担することができたと感じる。今後も職員間のコミュニケーションが積極的に行われるような環境作りを努めることで、職員の負担感を軽減できるようにしたい。</p>
	<p>&lt;電気系&gt;          経験や知識を共有できる職場環境をつくり業務の効率化をはかります。そのことにより労力を軽減し、総勤務時間の縮減を目指します。  <b>【活動指標】</b> 電気系職員が業務の効率化と勤務時間の縮減が実感できるよう互いに協力して取り組みます。  <b>【評価指標】</b> 業務の効率化と勤務時間の縮減に対する電気系職員の達成度の向上を目指します。</p>	<p>実習の準備・休憩時間・実習終了後や資格取得試験対策補習等、職員間で共有を図るとともに、データ共有を行って生徒に多くのことをフィードバックできる環境やそれぞれの教員の得意分野を伸ばす環境が整っており、業務の効率化に寄与している。          学校の目指す学校像に従って系として目標を定め取り組んでいる。生徒の人権尊重や学校内の人間関係を含めて取り組んでいる。</p>
	<p>&lt;総務部&gt;          ・会議資料作成などの事務仕事や行事運営の実務等において、全員が協力する体制を作る。          ・職務の円滑な運営を実現するため、情報共有を密にする。データファイル等の所在を明確にし、業務のマニュアル化を進め、担当者不在でも仕事を継続して行えるようにする。</p>	<p>・会議資料作成等の事務仕事や行事運営の実務等を全員で協力して行うことができた。          ・データファイルの管理や業務のマニュアル化により、円滑な業務遂行ができた。</p>

コンプライアンス・総勤務時間の縮減	<p>&lt;保健安全部&gt; 保健安全部の分掌業務を公平に分担し特定の職員に負担が偏らないようにします。職員相互の信頼関係を密にし、互いに連携して業務を効率的に遂行します。 ・業務を計画的に行い事前の準備を周到にして時間に余裕を持った業務展開することで、過重労働が無いよう取り組みます。 【活動指標】 ・保健部職員の対話や情報共有を密にして連携協力して業務に取り組み、一人ひとりの総勤務時間を縮減します。</p>	<p>・分掌業務について、各職員が自身の役割について積極的に取り組むことできた。また、保健安全部の取り組みに関しては部員が協力し、スムーズに運営することができた。 ・教育相談において、相談内容によって勤務超過が発生する事が多々あった。</p>
	<p>&lt;教務部&gt; 各系の業務を相互に連携・協力し、職務にかかる時間の削減をはかります。また、業務の円滑な運営およびコンプライアンスの遵守のために、教員間で情報共有を密にし、相互にコミュニケーションが取れる雰囲気づくりを目指します。 &lt;教務部：図書&gt; 個人情報の管理を徹底し、図書館システムを利用することで、処理や業務をスムーズに行います。 部内での情報共有をはかりスムーズな図書館運営を目指します。</p>	<p>&lt;教務部&gt; 業務内容を精査し、職務にかかる時間の軽減に努めました。相互にコミュニケーションが取れる雰囲気づくりを目指し、お互いが助け合い職務にかかる時間の分散、軽減に努めました。 &lt;図書&gt; 利用者情報の管理を徹底し、速やかに対応ができました。部内では積極的に関わりを持つよう努め、他の先生方との情報共有や助け合いができ、結果的にスムーズな図書館運営につながりました。</p>
	<p>&lt;生徒指導&gt; ・仕事内容を精査、簡素化し部員減少にも柔軟に対応出来る体勢を整える。部の連絡はホワイトボードや普段の会話を利用し、部会の回数、時間を抑えます。 ・係分担を行い、特定教員に負担がかからないようにします。また、互いに抱えている仕事を理解し合い、協力し合える雰囲気を作ります。</p>	<p>分掌内で情報共有を徹底することで、特定教員に負担がかからないようにできた。今後も協力し合える体制作りを励んでいきたい。</p>

#### 改善課題

- ・学校で決めた方針を教職員一丸となって取り組むことを求めた結果、生徒は大きな声であいさつをするようになったが、遅刻人数と特別指導件数が高止まりしている。時間を守ることや特別指導件数を減少させるように、生活習慣も含め躰の徹底を行っていく必要がある。
- ・少数ではあるが、教員の言動に関して保護者からの苦情があった。コンプライアンス研修としてリフレーミング研修とペップトーク研修を実施し、生徒への声掛けの引き出しを多くするように求めた。今後もコンプライアンス研修を工夫をしていく必要がある。

#### 6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桑名工業高校の魅力の一つがあいさつであるので、今後もあいさつができるように指導していただきたい。</li> <li>・工業に興味がない生徒にも桑名工業高校が楽しいと思える教育活動をお願いしたい。</li> <li>・基礎学力定着、資格取得をさらに推し進めていただくとともに、企業や地域と連携することで生徒の成長を促すことを今後もお願いしたい。</li> <li>・コミュニケーション力は、社会へ出てからも必要になるので、辛抱強く身につけさせていきたい。</li> <li>・先生方がゆとりを持って指導できるように働き方改革を推し進めるとともに、教職員研修を工夫して指導力を高めてもらいたい。</li> <li>・実習による事故・けがのないように安全教育の徹底をお願いしたい。</li> </ul>
----------------------------	--

#### 7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桑名工業高校3原則（あいさつ・身だしなみ・きれいな学校）の徹底と時間を守る、授業規律の徹底を図っていく。</li> <li>・基礎学力の「定着」から「向上」へとレベルを上げていきたい。朝学習の徹底、資格取得指導の強化、授業改善をさらに高めていく必要がある。</li> <li>・生徒のやる気を引き出すきっかけとして、課題研究による外部との連携をさらに広げ、高度な知識・技能を身につける工夫が必要である。</li> <li>・「考える」ことを大切に、「伝える」力を養成することで、コミュニケーション力向上を図りたい。</li> </ul>
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒の成長」を自分の喜びとして、全力で生徒を「支援」できる教職員集団を目指していく必要がある。</li> <li>・教職員研修に工夫を凝らすことで、「生徒の成長」を多面的に支援できる力量を持った教職員集団を目指す。</li> <li>・教員に時間的・身体的・精神的ゆとりを持てるように学校運営を改善する必要がある。</li> </ul>